

# 平成19年度機関評価結果対応方針

農林水産部・畜産総合研究センター

## 1 前回評価での指摘事項への対応状況

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① フォローアップ機能の充実	試験研究成果フォローアップについて進捗管理ができるよう、アウトカム（成果）の指標を具体化し、普及方法等の改善や更なる課題の抽出へ結びつけ、普及についてもPDCAサイクルを回すようにすることが肝要である。	フォローアップについての進捗状況は、毎年度開催のフォローアップ委員会で普及推進事項や普及率、達成目標などのアウトカム指標を明記したフォローアップ調書に基づき検討し、新規課題の立ち上げも含め、サイクルを回す。 また、成果の普及についてはホームページなどを活用し県民に広く、わかりやすく、かつ迅速に伝わる方法も検討していく。
	フォローアップ委員会については、今後運営のあり方を定期的に見直すなどして、制度を無理なく定着させることが肝要である。	毎年度、フォローアップ委員会の中で普及方法や運営方法をも含めた問題点の抽出を行い、改善を図る。
② 施設・機器の整備への県の支援	施設の老朽化や、耐用年数切れの機器類が多数あり、県としての支援策を検討する必要がある。	優先順位をつけて必要な経費については、毎年度予算要求していく。

## 2 県民や社会のニーズへの対応について

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 自発的テーマの明確化	県民ニーズが潜在的なニーズであっても研究機関としてやるべきテーマをもっと明確・明瞭化し、主務課へ強調すべきである。	県民ニーズに基づく研究テーマに取り組みながら、先進的、革新的な技術及び継続研究が必要なテーマについて、今後は課題の重点化を図る中で、推進方針の解決すべき課題への位置づけを明確にしていく。
② 県民ニーズ、基本目標、研究課題及びアウトカム指標との対応関係の明確化	具体的なニーズデータと千葉県農林水産業試験研究推進方針の7の基本目標と22の大研究課題等やアウトカム指標との対応関係を明らかにすることが肝要である。	ニーズと解決すべき課題との対応関係については、農林水産業試験研究推進方針の別冊資料にまとめてあるが、今後さらにアンケート等を活用しながら具体的なニーズを量的に把握していく。アウトカム指標との対応関係については今後フォローアップ委員会の中で、行政・普及とも連携しながら、整備していく。
③ 企画管理部門の充実	ニーズを分析・評価して研究課題と内容・目標を設定する企画管理部門の情報収集能力、指導性、調整能力を強化する	機関内評価委員会の機能を強化し、「推進方針」に基づき、課題の重点化、整理を進めていく。また、その際の具体

	ことが必要である。	的基準を作成していく。
④ 研究の深化	最先端の分野の研究者の採用又は育成を念頭に、研究企画部門が全体のバランスを考え、研究者の配置を中長期的に考えることが重要である。	中長期的観点から千葉県としての得意分野、必要分野などの方向性を見さだめつつ、独法、大学、民間との共同研究を推進していくと同時に、必要な人材の確保ならびに独法主催の研修等の機会を活用しながら研究者の資質向上に努めていく。

### 3 研究遂行に係る環境について

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 人的要素を中心とした組織の再整備	乳牛研究所のあり方と研究者育成を効果的に行うための環境づくりの視点から、人的要素を中心に組織の再整備を検討することが肝要である。	研究と業務の位置づけをさらに明確にしていくとともに、畜産現場のニーズに応えるための効率的な体制・人員配置のあり方について検討を重ねていく。
② 研究者数の回復と組織運営の改善	農業県千葉として、試験研究の位置付けから、また、畜産総合研究センターの畜産業支援業務の重要性から、研究要員数回復を期待したい。	組織再編を考慮したなかで、効率的な配置をしていく。
	サポート要員の業務の内容を高度化して研究者の負担を軽減させるというような内部の努力についても検討すべき時期にあるのではないかと。	

### 4 研究成果について

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 論文発表時の知的財産権の保護	研究成果を論文発表する際に、開発段階のノウハウの記載については、知的財産権の保護について配慮すべきである。	試験進行途中の発表については十分注意を払っているが、技術開発後については、公的機関の性格上、知的財産権の保護に留意しながら、広く情報を開示していく。
② 具体的な成果に関する評価と国内普及	千葉県ならではの研究成果が、今後は更に増えていくことに期待したい。	千葉県の得意分野、立地条件などを活かした研究に重点をおきながら成果を発信していく。

	研究成果を県内普及に留めるのではなく、国全体に普及するようリードすべく、県の主務課や国に対して施策を要請していくことが肝要である。	今後も行政普及と一体となって、関東地域や全国規模の推進会議などあらゆる機会を通して、アピールしていく。
③ 成果の学会誌等への発表	研究成果の中で特筆すべきもの、あるいは広く社会に広報すべきものについては、学会誌等、全日本的、全世界的な媒体に発表するような体質を持つようにすべきである。	共同研究の推進、外部資金の獲得の充実を目指し、文部科学省の科学研究費応募のための機関要件も念頭に置きながら、学会論文投稿を研究員に呼びかけているが、今後は企画部門の主導でさらに推進していく。

## 5 研究開発以外の業務について

結果報告 番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 学校教育における啓発と食育への支援	農林水産の学校教育における啓発を、県で統括的・効果的に展開することを検討すべきである。	関係部局と連携し、取り組んでいく。
	畜産に関する食育教育ができる人材がプールされているので、出前授業等、業務に無理のない範囲で、子供たちの食育への支援を行うべきである。	畜産総合研究センターでは教育啓発活動の一環として、サマーサイエンススクールや職場体験学習等の機会をとおして、畜産物が食卓に上るまでの過程の説明を実施して、生産の一場面を体験させているが、今後はエコフィード※を中心に小中学生向けの体系的な啓発資料の作成と継続した支援（出生から生産物が食卓に上るまで）も NPO 法人「いきいき畜産ちばサポートセンター」と協力して推進していく。  ※エコフィード：国内で発生した食品製造副産物、加工屑、余剰食品、調理残さ及び食べ残しを一定程度原料とする飼料。
② 経営体の育成、強化	千葉県農林水産業試験研究推進方針の基本目標に位置付けている経営体質の強化について、都市型と中山間地型の違いや、価格ではない付加価値創造という質の改革による経営の研究や指導等の推進を検討する必要がある。	中山間地域の酪農の存立要件についての研究を新たに開始するとともに、中山間地における放牧による付加価値の経営的検討なども進めていく。

③ 畜産総合研究センターの機能	現在の業務については、研究と技術支援の間のフィードバックを常に考えながら仕事を進めることが必要である。	講習会、コンサル、飼養管理指導などの機会を通して、関係する成果の周知と生産者や団体の要望の聴取など、双方向の情報交換に努めており、今後は農家からの直接的な要請にも積極的に対応し、こまめに情報交換の機会も増やしていく。
④ 動物福祉についての情報収集・状況調査の実施	動物福祉に関する情報(EU 基準)の収集や、千葉県の状況調査を他の部署(農業共済組合や農林振興センター)と協力して行っておくべきである。	これらの情報については、国などの動向を注視しつつ、様々な角度から収集し、整理しながら対応を検討する。

## 6 今後の研究の方向性について

結果報告番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 経営体質の強化	国際化に対応できる経営体質の強化に関して、畜産物の安全性や旨味などの感覚価値を高めながらどのように経営体質を強化していくかといった点に留意した、継続的な技術的追求が必要である。	牛乳中のCLA(共役リノール酸)※などの機能性物質を高める研究や、牛肉、豚肉等の食味性向上試験などに取り組んでおり、今後も中山間地における放牧による付加価値の検討さらには、それらの導入条件などの経営研究も進めていく。  ※CLA(共役リノール酸)：ウシの乳や乳製品、牛肉に含まれる脂質で、抗癌効果、抗肥満効果などが知られている。
② 基本目標の具体化	今後の研究の方向性は、小規模な環境下で実施可能なものをより具体性を持った目標にし、その下で研究課題との相関関係を明示することが肝要である。	ニーズと解決すべき課題との対応関係については、農林水産業試験研究推進方針の別冊資料にまとめてあるが、一般県民にもわかりやすい形の資料も作成していく。
③ 環境対策	混住化の流れの中で、周辺環境や周辺住民との共存のための対策が、畜産にとって重要性を増すのではないかと。	悪臭対策、浄化処理や堆肥化処理の効率化など試験研究機関としての果たす役割については、鋭意取り組んでおり、共存化やその他の対策については行政・普及との連携を強化して取り組んでいく。
④ 遺伝資源の確保	在来種の維持、あるいは系統造成に関して、戦略と戦術の提示を検討願いたい。	県内の優秀な能力を有する雌牛を導入し、受精卵の活用によって、乳牛雌牛を借り腹とした肉用牛生産や高い産乳成績の乳牛雌牛から直接多くの後継牛を生産するなど、雌側から多様な遺伝資源を確保する。豚では千葉県産カンショを利用した中ヨークシャー種でのブランド化など、特徴を活かしながらの遺伝資源の

		<p>確保、および系統豚※では、繁殖能力向上を目標に農家の要望も聞きながら、系統造成を進めていく。今後は「遺伝資源の確保」という観点も意識しながら、可能な限りこれらの維持に努める。</p> <p>※系統豚：お互いに一定以上の血のつながりを持った豚の集団のことを「系統」と言い、その集団を構成するそれぞれの豚を「系統豚」という。</p>
⑤ 地球温暖化への対応	<p>畜舎環境、飼料選択、飼料設計、衛生管理、畜産物の生産性と質(乳量と乳質等)、モニタリング手法等々、夏期暑熱時の家畜管理についての情報収集と調査、技術の体系化、試験研究として行うべきは何かを検討願いたい。</p>	<p>今後重要度を増してくると考えられるので、情報収集を進め、取り組むべき課題を明確にしていく。</p>

## 8 総括

結果報告番号・見出し	指摘事項の内容	対応方針
① 研究テーマとニーズとの分布データの作成	<p>研究テーマの重要度ランクと県民ニーズ又は期待効果とを二軸に整理した分布データがあれば、研究資金と人材の全体的投入計画が見え、対外的なアピールの上で有効なので、分布データの作成を願いたい。</p>	<p>県民ニーズを定性的には把握しているが、これを重み付けした定量化作業までは行っていない。今後はアンケート等により精密にニーズを把握する手法も含め検討しながら実施していく。</p>
② 目標値、研究計画及び全体計画の明確化	<p>PDCAサイクルを回すために、各研究テーマごとに目標値の明確化と具体的なプロセス計画を組んだ計画表を作成する訓練を行っていくことを期待する。</p> <p>その際には、研究から普及までの全体計画を明らかにし、その下で各課題の研究や普及の進捗管理を行う工夫が必要である。</p>	<p>研究から普及までの全体計画を普及組織等と協議検討し、その目標値を数値化した上で、新規課題を設定し、内部評価により進捗管理を行うとともに、現場への普及をフォローアップしていく。</p>
③ 千葉県の立地に即した研究の充実	<p>千葉県の立地に即した研究の一層の推進を期待する。</p>	<p>本県では、食品工場が多く、そのような立地を活かした食品製造副産物の飼料化や県特産のカンショを利用したブランド化などに取り組んでおり、さらに一層の推進を図っていく。</p>
④ ニーズの見極めと存在感の確立	<p>長期に渡る飼料価格の高騰下で、畜産農家が大変苦勞していることを念頭におき、多様なニーズの中で、何が今、必要かということを明確に認識しながら、研究センターの存在感を農業者と消費者に</p>	<p>現段階では、飼料価格高騰対策が緊急課題であり、プロジェクトチームを立ち上げて検討している。また、飼料イネや製造粕類の発酵飼料に関する試験、食品残さ飼料に関する試験など実施中の課題</p>

	<p>認識させることに努力願いたい。</p>	<p>に加えて、肥育期間短縮や新たな飼料資源の探索なども検討している。</p> <p>このような取り組みや試験研究内容を知ってもらい、研究センターの認知度を高めるため、試験研究成果発表会や消費者、生産者との懇談会、研修会・講習会、各種共進会、さらにはホームページなどを通して成果を普及するとともに、フォーラムなどの開催を通じて、一般消費者や報道機関への情報提供など広くアピールしていく。</p>
--	------------------------	---